

コロナ禍での看護学生生活より

戸田常紀

大阪府済生会中津看護専門学校

抄録

コロナ禍での本校の感染対策を報告するとともに、有史からみた感染症や自然災害の人類の克服を引用して看護学生への期待を込めた寄稿文とした。

Key words : SDGs 新型コロナ感染症 看護学校教育

SDGs (Sustainable Development Goals :

持続可能な開発目標)におけるコロナ禍

46億年前に誕生したとされるこの地球に我々人類は生命を与えられ、約18.5万年前から6万前にはおそらく生きんが為に食糧を求めて誕生の地アフリカを出て世界中に進出していったと推察され、約1万年前には農耕が始まったとされている。その命の源を得る為の農業には太陽の恵みと水が欠かせられない。その為に継続より効率を重視しすぎた事で、今SDGsがさげばれ、今を生きている我々は行動を考えなおさなければならなくなった。

そんな折、2020年1月15日に我が国で最初の新型コロナウイルス感染者が報告された。

当校での新型コロナウイルス感染症に対する対応

同年4月7日には緊急事態宣言が発出され、以後、当校の看護学生も今迄とは異なる学生生活を強いられる事となり、体調変化等緊急連絡は当番制で連絡用携帯電話をもって教員に報告し、その対応を指示にて実行した。さらにその内容を毎朝令時に全職員が共有し、登校時はクラス担任が対面で学生の体調を客観的に判断、またメンタル面も含め相談を受け対応する様にした。学校外での生活は中津医療センターの基準に従った。教員で感染対策を立案し、職員会議で全職員に周知徹底を計り、感染防止対策としてハード面では3密を避ける為の換気対策を、各教室等の窓をチェーン様物品を用いて開き、フロア全体での通気を計った。授業はオンデマンドを導入し、対面での座学や実習等は時間差登校や席と席の間隔をあげ、学生が使用

するロッカーも使用に際し密とならない様に工夫をこらした。ソフト面での感染リスクの高い昼食時を時間差にして密をさけ、また黙食の徹底、食後の休息時の会話を特定の人との積算時間を短縮する為、指定休憩場所と食事場所を変えたりもした。また学生には一日の行動履歴用紙への記入を義務づけして感染対策の意識づけを計った。しかし、病棟や施設等での現場での実習は、特に将来社会に出たならば看護職で最も大切に基本の、人との繋がりから学び会得するはずの事が看護学生としては十分に出来なかったのではないかと思われる。

有史からみた感染症や自然災害の経験—人類の克服

しかし、歴史を振り返れば、感染症のパンデミックや自然災害から我々の祖先は見事に立ち直ってきた。あの致死率が高く黒死病として恐れられたペストも6世紀、14世紀の流行、それにヨーロッパの人口の約1/3以上が死亡したとされる1720年の大流行の後、1894年を最後に流行は見られなくなったが、そんな困難も乗り越え、上下水道等衛生環境が大幅に整えられる事となった。また近年、地質学的調査による年代測定で自然災害の年代推定と歴史学的事件の比較から、中国より遠く離れたニュージーランド北島のタウポ火山の大噴火では成層圏まで舞い上がった放出物で太陽は遮られ気候変動が起こり、中国の民は食糧に事欠き「黄巾の乱」の誘因になったと推論されており、また1815年のインドネシアのタンボラ火山の大噴火では一つの村の全住民とその生活の跡は全て消え去り、日本も大変な冷夏に見舞われ困窮を強いられた。特に、ヨー

ロッパでは馬に与える餌にも困り、馬車が使えなくなり、困った人間は自転車の原型を発明。またユストゥス・フォン・リービヒが化学肥料を発明しそれにより食糧増産につながり、人口は増加し現代に繋がっている。そして我が国では1963年に老人福祉法が制定され、この年100歳超は153人、それが2021年9月時点では86510人を数えている。

コロナ禍を経験した看護学生への期待

我が国の将来はこの世界に冠たる長寿国の老人の心と身体を支える大きな力となるのは他ならぬ看護職であるのはこのコロナ禍ではっきりとなり、誰もが認めるところとなった。看護の道を目指す学生は自ら孤独に耐え、学びも座学が減り、自ら思考し行動する行動変容で多くを得たものと信じて疑わない。社会にでたら、近き人から向き合い、手を差し伸べる人に必ずなってくれるだろう。言語をもっている人類は言わなければならない、言ってはいけない、言外や行間になじむ言葉等を汲み取る能力もきっと身につけた事だろう。孤独に耐えた事は必ずや社会に出た時の大きな、大きな心の財産となっている。困難は必ずや人を大きく成長させてくれるもの。このコロナ禍での看護学生としての学生生活は未来へのすばらしい肥やしとなるだろう。